

## 2020東京オリンピック 自衛官選手の活躍

柴田 幹雄 陸自75

8月8日、17日間にわたって熱戦が繰り返された第32回オリンピックが終了しました。種々の悪条件を考えれば国家的行事としては大成功と言えるでしょう。

本大会には新種目として空手、スケートボード、スポーツクライミングそしてサーフィンが加わり、新たなスポーツマインド、カルチャーが新鮮でした。また野球とソフトボールが北京大会から3大会ぶりに復活

しこれらも楽しみました。

それらの種目も含め本大会では日本人選手の大活躍で、メダル数も過去最多の58個（金27、銀14、銅17）を獲得しました。

自衛隊体育学校からは、17人の自衛官選手が10種目に参加しました。女子柔道78<sup>キ</sup>級の濱田尚里1等陸尉、男子フェンシングエペ団体で山田優2等陸尉、男子レスリングフリースタイル65<sup>キ</sup>級で乙黒拓斗2等陸曹がそれぞれ金メダル、混合団体柔道で濱田1尉が銀メダル、女子ボクシングフライ級で並木月海3等陸曹が銅メダルを獲得しました。

メダル獲得とはならなかった選手も大いに健闘しました。その結果は、乙黒圭祐3等陸尉が男子レスリングフリースタイル74<sup>キ</sup>級で1回戦敗退。成松大介1等陸尉は男子ボクシングライト級の初戦で判定勝ちしましたが、陥没骨折のため2回戦棄権。同じく森脇唯人3等陸曹はミドル級2回戦敗退。松本崇志1等陸尉は射撃の男子ライフル3姿勢及びエアライフルで予選敗退。山田聡子3等陸曹は女子25<sup>トル</sup>ピストル及びエアピストルで予選敗退。勝木隼人2等陸尉が陸上男子50<sup>キ</sup>競歩で30位。河添香

織2等陸曹が女子20<sup>キ</sup>競歩で40位。高橋航太郎2等海曹が競泳男子800mリレーで予選敗退。山田2陸尉はフェンシング男子エペ個人でも6位入賞。岩元勝平3等陸曹は男子近代五種で28位。島津玲奈3等陸曹は女子近代五種で23位。藤嶋大規2等陸曹はカヌー、カヤックフォア500<sup>リ</sup>準々決勝で敗退。松下桃太郎3等陸曹はカヤックシングル2000<sup>リ</sup>で16位、カヤックフォア5000<sup>リ</sup>準々決勝で敗退。梶木真凜3等陸曹は、ラグビー7人制女子のメンバーとして出場しチームは12位でした。(8月10日産経新聞)。

オリンピック開幕までマスコミは開催に消極的で、普通なら事前に競技種目の解説や有望選手などへの期待をやりすぎなほど報道するのに今回はそれがほとんどなく、どんな種目のどんな選手が出場するのか情報があまりありませんでした。そんな中で『偕行』8月号で紹介した女子柔道の濱田選手は世界から選手が参加する元年グラندスラム大阪で銀メダル、2年グラندスラムデュッセルドルフで金メダルを獲得しており、増地女子監督が最も期待し信頼の厚い有望選手でした。

濱田選手は準々決勝でロシアのバピンツェワを支えつり込み足で崩し、巴投げのような技で相手を倒す

と技あり、そのまま抑え込んで締め技で一本勝ちしました。準決勝ではドイツのマリア・ワグナーの右腕を取り大外刈りでおし倒すがポイントなし。しかし直ちに右腕を取つたまま腕ひしぎ十字固めで一本勝ち。決勝は、フランスの手足の長いマロンガが足技をかけてくるのをかわし、マロンガは倒れるが四つん這いになり防御の体制をとります。濱田選手はこれを返して寝技に移行。マロンガが何とか立ち上がろうとするのだが、抑え込んで一本勝ちし悲願の金メダルを獲得しました。

濱田選手と対戦して膝をついたらもう終わりという感じがするほどの強さでした。濱田選手は、ロシアの伝統的武技のサンボも修得していますが、そもそも寝技は相手を抑え込んで抵抗を封じてとどめを刺すという戦国時代からの技らしく投げ飛ばす以上の必殺技なのかもしれませ

ました。SNSでも大人気です。濱田選手の優勝・金メダル獲得を心から祝福します。

レスリングフリースタイルの乙黒拓斗選手も過去の世界大会などで金メダルを獲得しており有望選手でした。乙黒選手は決勝でアゼルバイジャンのハジ・アリエフ選手と対戦、第1ピリオドでは2点先取していたが終了直前に追いつかれ2対2となります。同点の場合あとから点を取つた側の勝利となります。第2ピリオドではまさに積極果敢に高速タックルに出て、オリンピックで生まれた新語を使うならゴン攻めで、最終的に5対4で勝利、金メダルを獲得しました。試合後のインタビューで「苦しいことも多かったが、

周りの人のおかげで前に進んで来られた。夢をかなえられて本当にうれしい」と涙とともに語っていたが印象的でした。フェンシングには山田優選手がエペに出場し、4名での団体戦で金メダルを獲得した。フェンシングにはフルーレ、エペ、サーブルの3種の競技があり、それぞれ使用する武器有効攻撃部位が異なります。フルーレは胴体だけ、エペは頭部から手先、

足先まで含む全身全てを突くことでポイントになります。サーブルは日本語発音で言えばサーベルで、突くほかに斬撃もポイントになり、有効部位は頭部含む腰から上、腕は手首までです。今回優勝したエペは全身で手足の先まで有効部位ですから相手の剣の突を払う防御もまた全身を守らねばならず、フェンシングの王道なのだそうです。試合はどこをどう突いたのか速すぎて見えません。現在は電気剣と呼ばれる剣の先で一定の力と時間で、相手の有効部位に打突すると自分の面についたライトが点灯するのでわかります。

エペ男子団体決勝は韓国との対戦でした。山田選手は先鋒として対戦、ここで高ポイントをまず獲得、続く宇山選手(三菱電機)の得点も大きく、ほか二人も健闘し最終的に45対36で韓国エペを下しました。競技終了後のインタビューで山田選手は「日本のフェンシングはエペの時代です。もうほんともちやくちやうれしいです」と述べました。日本のフェンシングの実力向上にはモスクワ五輪のフルーレで金メダルを獲り、フェンシング界の発展に力を注いできた太田勇貴氏の貢献が大

きいことは論を待たないでしょう。太田氏はフルーレで活躍したのですが、フルーレは攻撃有効部位が胴体だけということで、緻密繊細な剣さばきが必要で日本人に合っていると、日本ではフルーレが主流だったようです。今回フェンシングの王道といわれるエペで優勝したことから山田選手の「日本のフェンシングはエペの時代です」という言葉になったのだと思います。山田選手が日本フェンシング界の発展にも大きく貢献してくれることを期待します。

並木選手は千葉県出身で家族の影響で幼少のころから空手道場に通い、キックボクシングも始め、中学からボクシングを始めました。

今回女子フェザー級で金メダルを獲った入江聖奈選手も小学校2年からボクシングを始め中学でも負け知らずの快進撃でした。ところが入江選手が高校1年のインターハイで、当時3年生の並木月海と対戦し負けを喫するという接点があります。

並木選手は令和元年ロシア国際大会で金メダル、2年五輪大陸予選で銀メダルを獲っています。

オリンピック女子フライ級準決勝で、並木選手はブルガリアのクラス

テバと対戦しました。持ち前の攻撃精神で敢闘しましたが、上背があり手足の長いクラステバにポイントで差を付けられました。最終第3ラウンドで並木選手はさらに積極攻勢にでる健闘ぶりではありましたが結果は5対0の判定負けでした。

試合後のインタビュで「ここまですべて自分で自分をほめてもいいかと」と言いつつ涙をぬぐいながら「でも、くやしいです」と声を詰まらせていました。今後の更なる活躍を期待します。

メダリストを主として紹介しましたが予選で敗退したり、入賞できなかった選手も、その競技にすべてをかけて精進を続けてこられ、オリンピック出場の栄を勝ち取られました。オリンピック本番で実力を十分に発揮されたことと、それまでの努力と鍛錬に対して心からの敬意を表します。

自衛隊体育学校の学校長以下職員の皆様のご尽力あつての今回の自衛官選手の活躍であろうと思います。すべての自衛官アスリートの今後の益々の活躍を祈念いたします。